

令和3年度宮崎県献血推進協議会議事概要

1 概要

令和3年度献血推進状況及び令和4年度献血推進計画（案）について、献血推進協議会委員に意見を求め、今後の献血推進事業の参考とするため、宮崎県献血推進協議会運営要綱に基づき協議会を開催した。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、令和3年度宮崎県献血推進協議会は書面協議とした。

2 委員等

資料1のとおり

3 協議内容

コロナ禍における普及啓発活動及び若年層向けの情報発信においては、これまで以上にSNSをはじめとした情報発信技術の活用が重要であるとの意見が挙げられた。

書面協議により各委員より出た意見及びそれに対する事務局（幹事）の意見等は以下のとおり。

なお、令和4年度宮崎県献血推進計画については、確定後改めて各委員へ送付する。

（1）令和3年度献血事業推進状況（資料1 1～6ページ）

委員からの意見等	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の影響の中、98.4%の達成率となったことは評価できる。関係者の多大な尽力、献血者の協力に感謝する。・コロナ禍での実績としての達成状況は、経年的に見ても良いと思う。実施状況の報告で、新規の取組があったか否かが分かると良い。学生を対象とした献血は、活動の制限下では仕方ない。
事務局（幹事）意見	<ul style="list-style-type: none">・今年度の新規の取り組みとしては、学生献血協議会が県警察本部と連携して行った啓発事業や県赤十字血液センターが公式LINEを用いた啓発を実施した取組などがある。資料については、取組がより分かりやすく報告できるように検討したい。
委員からの意見等	<ul style="list-style-type: none">・献血者が落ち込んだ際に、プレスリリースにより献血者が増加したとのこと。媒体での発信方法の違いにより、献血者層（年齢、男女、全血か成分献血か）に差が出ているか？ 献血者層に差異が生ずるのであれば、メディアでの発信方法を工夫すれば、より効果的な情報発

<p>事務局（幹事） 意見</p>	<p>信が可能かと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・媒体の発信方法による献血者層の集計は行っていないが、新型コロナの影響による献血者減少のプレスリリースを行った5月と1月について、若年層（10～30代）の総献血者に対する割合は5月26.3%、1月28.3%で、4～1月累計の29.5%を下回っていることから、40代以上の協力が多かったというデータとなっている。 若年層に対しては、従来のTV・ラジオ・新聞等のマスメディアよりSNSによる情報発信が効果的であると言われているため、今後は献血者層に合わせて情報発信を工夫していきたい。
-----------------------	---

（2）令和4年度献血推進計画（案）（資料1 7～10ページ）

<p>委員からの意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じての献血者の確保が課題と思うので、ラブラッド会員の登録推進と若者への啓発、アピールに力を入れてほしい。SNS等のさらなる活用を期待している。
<p>事務局（幹事） 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層の献血協力者の確保及び複数回献血者を増やすことは将来的にも安定した血液事業を推進するには重要な課題であり、本協議会の意見も踏まえながらSNS等のさらなる活用について検討を進めていきたい。
<p>委員からの意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・献血推進計画において、さまざまな献血啓発・推進事業（啓発活動、県民大会、学生活動との協力、献血思想普及）が今年度と同様に令和4年度にも計画されているようだが、それぞれの活動において、過去にどれほどの献血推進が計られたか、将来的な見込みはどうかであるかの分析はされているか？
<p>事務局（幹事） 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・献血推進活動による効果の分析は重要であると考えますが、啓発事業の性質上、個々の取組による成果を数値により分析することは難しいため、本協議会や献血の協力者、また将来を担う若年層の方など幅広い方からの意見を取り入れて事業に反映させたいと考えている。 なお、近年は宮崎県学生献血協議会の方々との連携を強化し、啓発方法や資材について意見をいただき活用しているところである。特に今年度は、学生献血協議会からの提案で県警察本部とのコラボ企画を実施し、これまでにない手法で献血推進に取り組んだところである。

委員からの意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、活動内容の概要が変わっていないように見受けられる。しかし、少なくとも来年、再来年度までは新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けると考える。今までとは世間状況が違うことを意識して、献血目標を確保するための措置等がこれまでと同様で良いのかを判断する必要があると考える。また、今まで以上に情報通信技術等を駆使する必要があると考える。
事務局（幹事）意見	<ul style="list-style-type: none"> ・献血の御協力者に実施したアンケート調査において、献血の情報を見る機会としてはテレビやポスターを介してとの回答が多く、献血者を増やすための情報発信としてはテレビ、ラジオ番組、CM及びSNS（ラインやフェイスブック等）が良いとの回答が多くあった。 これらの結果も踏まえ、県としては、テレビやラジオの県政番組や県公式のSNSを活用した広報活動を行ってきたところである。また、県赤十字血液センターでは今年度からLINEでの情報発信を始めるなど新たな取組も始めている。 今後もより有効な情報通信技術の活用を課題として取り組んでいきたいと考えている。

（3）その他血液事業に関する意見等

委員からの意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で献血セミナー等十分な活動ができず残念。 ・コロナ禍の中で、思う様な活動もできず、大変だと思う。一日も早い終息を願う。 ・報道でロータリークラブの協力を見た。感謝する。 ・供給状況が心配な場合は、各事業団体へ協力を要請してみてもいいか。
事務局（幹事）意見	<ul style="list-style-type: none"> ・御提案のとおり、献血者の確保が難しい場合の各関係団体や協力事業者に協力要請について、より積極的に取り組みたい。
委員からの意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・献血方法のシステムは大きく変わっていないため、献血スペースでの新型コロナウイルス感染を過度に心配する県民もいらっしゃると思います。献血愛だけでなく、献血における感染対策に対しての情報発信も今まで以上に必要だと考えます。 「献血場所では感染対策をしっかりとっています。」だけでなく、具体的にどうしているから安全であるという内容の情報発信が必要かと

<p>事務局（幹事） 意見</p>	<p>考えます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 県民が安全・安心に献血いただくためにも感染対策を徹底していることの情報発信は重要であると考えます。 <p>県赤十字血液センターでは、献血受入事業所等に対し具体的な感染対策として、「手指消毒の徹底」「機器消毒の徹底」「体温測定の実施」「空気清浄機の設置」「ビニールカーテン等による飛沫感染防止」「献血ルーム及びバスの換気」について説明を行うとともに、献血協力事業所へ配付する周知チラシや街頭献血会場での依頼要請ハガキの書面にも記載する等の情報提供を行っている。</p> <p>今後も、ホームページや SNS での具体的な感染対策の情報発信、またマスコミ取材時にも安全性を強調した PR に努めていく。</p>
-----------------------	--